

山草連盟の主な行事

(平成23年度)

- | | | |
|-----|------------|-------------------------------|
| 5月 | 春の自然観察研修 | 那須・塩原方面 黒磯山野草展示会・鬼怒川山野草展示会 |
| 6月 | 夏の展示会 | 真崎集会所 |
| 7月 | 夏の一泊研修自然観察 | 筑波山方面 |
| 9月 | 講習会 鉢作り | 笠松工房 |
| 10月 | 芋煮会・山野草交換会 | 舟石川コミセン 寄せ植えの講習 |
| 10月 | 東海村文化祭に参加 | 総合体育館 |
| 1月 | 親睦会 | 舟石川コミセン |

当連盟では、山野草の栽培、管理の仕方の研磨、時節
の山野草自生地見学研修などの活動をしています。

“入会を希望される方は、ご連絡ください”

《連絡先》 山草連盟理事長 山崎 国光

TEL 282-2040 携帯 090-2317-9057

平成23年度東海村文化祭

山野草展示会



リンドウとアキノキリンソウ

- | | |
|-----|------------------------|
| 期 日 | 11月4日(金) ~ 11月6日(日) |
| 場 所 | 東海村総合体育館 |
| 主 催 | 東海村文化祭実行委員会 東海村山草連盟 |

苔玉の管理

水やり

- 目の細かいジョウロを使う
- 基本は1日1回、朝に与え、夏は朝夕の2回与える
- 乾燥防止に、受け皿に水を張っておく
根が弱るので受け皿の水は薄く張る程度にします。

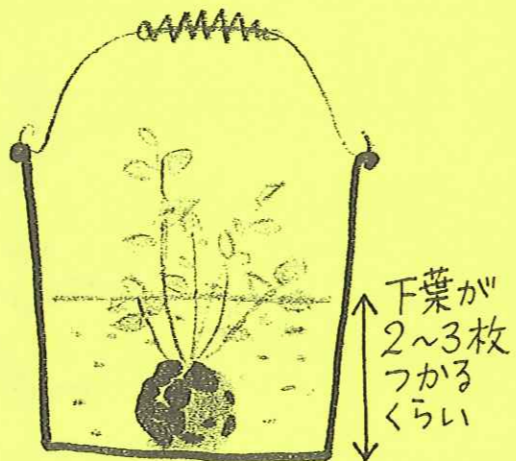
水やりのしかた

ジョウロで葉の上から水やりします。夏は苔が乾くようなら日中にも与えて日陰に移動させます。



水切れしたら

バケツに苔玉の下葉が2~3枚つかるくらいに水を張り、そっと苔玉を入れて十分に吸水させます。20~30分ひたしたら取り出し、1~2日は直接日光の当たらない日陰で管理します。

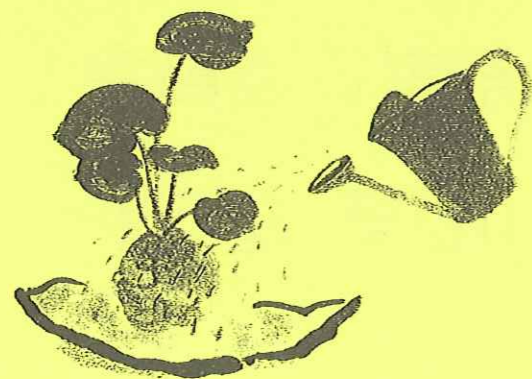


肥料

- 春と秋に、薄めの液肥を月に2~3回与える
 - 真夏や休眠中の冬は控える
- 土の部分が少ないため、通常の濃度より水で薄めた液肥を与えるほうが問題がありません。

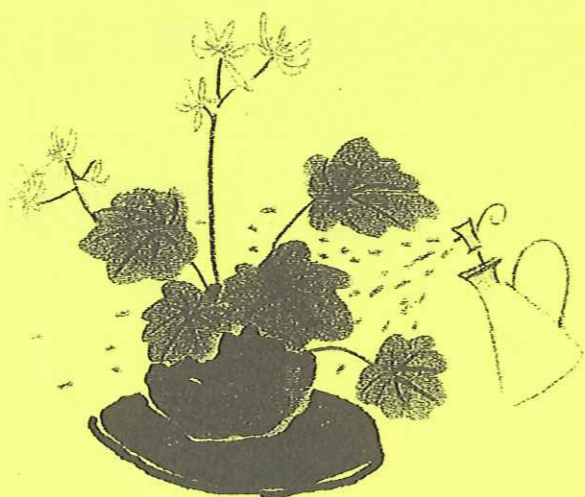
液肥の与え方

ジョウロで苔の部分にまんべんなく、水やりのかわりに与えます。日中は避けて、夕方に与えます。



葉面散布

葉面散布は、葉から栄養を吸収させる方法です。ワレモコウやダイヤモンドソウなど春に枝葉を短く切り詰めた植物には、液肥を与える時にときどき葉にもかけてやると、花がよく咲くようになります。

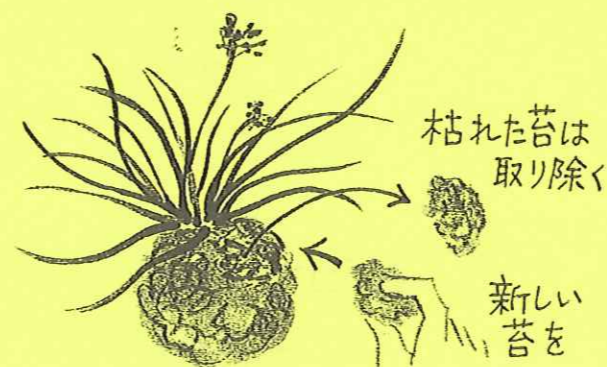


四季の手入れ

- 株や苔が弱るので、夏の蒸れや冬の霜柱に注意する
 - 大株に育つ植物は草姿を整えてバランスをとる
- 根の伸びる範囲が苔玉の大きさしかないため、地上部はそれほど大きく生長しません。ただし、年数が経つと、茎や葉が混んできて雑然となります。茎や葉を間引いたり、丈の高いものは切り詰めて形を整えます。

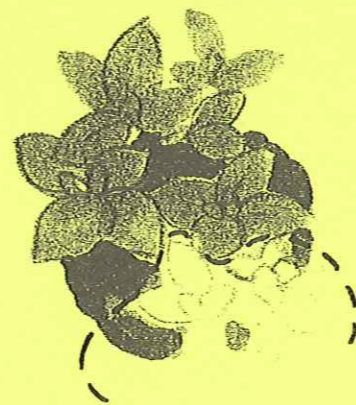
春の手入れ

冬に霜柱にあうと苔が枯れてしまうことがあります。枯れた部分は暖くなるこの時期に張り直します。花がらは摘み取り、ケムシなどは取り去ります。春は、株分けやタネまき、挿し木などが行えます。



夏の手入れ

茂りすぎると蒸れて病害虫が発生しやすくなります。全体のバランスをみながら、葉と葉がふれあわないくらいに切り除いて、内部にも風が通るようにします。



秋の手入れ

夏の間に枯れた葉は取り除き、草姿が乱れていたら余分な茎や葉を整理してバランスを整えます。涼しくなるにつれて再び生長しだし、秋の花や風に揺れる穂が楽しめます。ノギクなどは花がらを2~3節下で切ると、脇芽が伸びてもう1度花を咲かせます。病害虫の薬剤散布には、スプレー式のものの方が簡単です。



冬の手入れ

霜柱に注意し、寒さに弱い植物は発泡スチロールの箱(80ページ参照)や室内に入れて保護します。冬に葉が枯れるススキ類は、完全に枯れるのを待ってから株元から10cmくらい上で刈ります。

